“Hills Like White Elephants”を求めて
～公園に集う動物たちを読む～

寺 村 友 樹

身の回りの白い象のような〈何か〉を探して

ヘミングウェイの“Hills Like White Elephants”を読み、自分なりの考察や他の学生の考察と合わせて読むと、このシンプルな会話による物語には、様々な意図を暗示させている可能性を読み取ることができた。そして今回、「自分の周りの白い象を探す」というテーマが提示されたわけであるが、私には身近な白い象と聞くと瞬間的に思い浮かぶものがあった。しかし問題なのは、それがあまりにも身近に日常的に存在するため、そんなものを文学的に考察できるのだろうか、ということであった。

そこで私は考えた。この物語に登場する白い像のような山並も、筆者が自ら様々な暗示を込めていることを公言しているわけではない。あくまで考察によって可能性を読み取ることができるというだけである。ならば、この私の身近にある白い象においても、文学的な意図を感じ取るとまではいかなくても、そこにそれが存在することに意味、それによって生まれる物語を読み取ることは可能なのではないかと。

公園に集う「白い象のような像」

そうと決まればさっそくカメラを片手に取材に向かった。目的地はどれも自宅から徒歩数分のところにある公園である。幼い頃の記憶であったため、多少の不安を持っていたが、いざ到着すると「彼ら」は確かにそこにいた。ひっそりとたたずんでいたのである。

それは紛れもなく象のような何かである。上に載せた二つは、左が「白い象のような像」、右が「黄色い象の親子のような像」である。調べてみるとこれらはライドと呼ばれる遊具の一種であることがわかった。昼間は子どもたちを楽しませているのだろうが、夜の彼らからはある種の不気味さや、寂しそうに佇む哀愁を感じた。

今回、４つの公園で捜索を行ったのだが、その全てで象のような像を確認できた。さらに、私を迎えてくれたのは象だけではない。実に多様な動物たちが公園には集っていた。

左：白い鳥のような像　右：白い犬のような像

左：白い亀のような像　右：赤いサイのような像

左：茶色のカブトムシ（メス）のような像　右：山のような滑り台とカラフルな動物たち

このように存在する動物は様々であり、その色もほとんどが剥げ落ちてはいるがそれぞれバラバラでカラフルである。場所も無造作で、砂場の中や横、電灯の傍など自由に動き回っているかのようである。向いている方向も千差万別である。

公園に集う動物たちを読む

このように公園は、まるで小さな動物園かのようにたくさんの動物たちが集まっていた。先ほども述べたように、彼らは子どもの遊具として作られ、子どもを楽しませるためにそこに存在しているはずである。しかし、秋のさらに夜の公園ということもあるのだろうが、彼らはどこか物悲しい雰囲気を漂わせていた。それは、像であるが故の無機質からくる表情や、長年雨風に耐えていることにより塗装が剥がれている等の物理的な要因からであろう。しかし、私には彼らには感情があるような、そんな気がしてならないのである。彼らが公園にやってきたころにはたくさんの子どもが公園で元気に遊んでいた。朝の早くから日が暮れるまでずっと。そのころは彼らももう少し明るい表情を見せていたのではないか。しかし近年、ゲーム機の普及などにより子どもたちの遊びも変化してきている。その上に子どもの数が減り、彼らは子どもに滅多に相手にされることがなくなった。そんな寂しい叫びが聞こえてくるような感情を覚えた。少し強引だと思われるかもしれないが、カメラを向け。ファインダーから彼らの目を見ていると、確かにそう思えたのである。

もし周りに公園があるなら一度、できれば夜に彼らを探しに足を運んでみてほしい。幼いころ見たのとは少し違う表情を感じ取ることができるだろう。懐かしさとともに、自分が大人になったのだと感じることのできる瞬間である。

今回のテーマを通して、文学的な考察ができたかどうかは自信がないが、彼らから感じるものは確かにあった。自分の成長を実感できただけでも大きな収穫である。